

授業シラバス

詳細情報

2011-4030000405-01

科目名「クラス名」(サブタイトル)	期別	単位数	開講年次
貿易特別講義 A (体制移行の背景、理論及び過程)	前期	2	2
担当教員	木幡 伸二		

概要

1. 授業内容

BRICsと呼ばれて注目を集める新興経済国のなかで、ロシア及び中国は社会主義国から資本主義国へと経済体制を移行させた或はさせつつある「移行経済国」です。また、ポーランド等の中東欧諸国、アジアではベトナムもこれに該当します。いずれの国も、世界経済の成長に様々な形で寄与しており、我が国もその恩恵に浴しています。中国経済の発展が日本や世界の経済に及ぼす影響については、日本では広く知られるところですが、ロシア(旧ソ連)及び中東欧(旧東欧)諸国も、拡大したEU経済を牽引する原動力となっているのです。しかし、これらの国々が「移行経済国」であるが故に抱えている経済の特徴や問題点については、余り注目されていないのが現状です。そこで、本講義では、「貿易特別講義B」と共に、「体制移行」について全般的に検討してゆきたいと思います。それによって、これらの国々の経済に対する多面的な理解が深まれば、と考えます。

本講義では、第1に、体制移行に関するいくつかの概念的枠組みを提示し、体制移行を学ぶ意義について述べます。第2に、社会主義の理想像と現実のギャップ、計画化の実態、体制内改革の試み及び体制移行前の経済低迷など、体制移行の歴史的背景について説明します。第3に、体制移行の理論的根拠について検討します。特に、計画化モデルの操作性など社会主義体制の持続可能性の問題を取り上げ、体制移行の蓋然性について指摘します。第4に、体制移行の過程については、ロシア等が採用したショック療法と中国が採用した漸進主義的方法の比較を中心に考察する予定です。

2. 授業の進め方

授業は、(1)テキストの当該部分の要点の解説、(2)関連事項の説明、(3)質問と解説の順番で進めます。

また、テキストの各章または項目の説明終了後に小テストを行う予定です。

3. 学習の方法

事前学習では、テキストの当該部分を読み、そこでどのようなことが議論されているのかについて確認してください。

事後学習では、テキストや配付資料に基づいてノートを整理し、不明の点があれば参考書などで確認してください。それでも解決できない場合は、オフィスアワーなどの時間を使って遠慮なく質問してください。

到達目標

体制移行の定義、歴史的背景、理論的根拠及び移行過程の中口比較について学び、これらの項目の要点について説明することができるようにすることを目標とします。

成績評価基準および方法

定期試験の成績70%、小テストの評価30%を目安として評価します。

テキスト

中兼和津次著『体制移行の政治経済学』名古屋大学出版会、2010年 ISBN 9784815806361

参考書

溝端佐登史、吉井昌彦編『市場経済移行論』世界思想社、2002年 ISBN 9784790709435

中兼和津次著『経済発展と体制移行』(シリーズ現代中国経済1)名古屋大学出版会、2002年 ISBN 9784815804411

大津定美、吉井昌彦編著『ロシア・東欧経済論』ミネルヴァ書房、2004年 ISBN 9784623041596

履修上の留意点

受講者は、あらかじめ、中国経済の発展について学ぶ「アジア経済論A」(木幡担当)を受講しておいてください。

また、「体制移行」について更に学びたい学生は、木幡が担当する「貿易特別講義B(体制移行の評価と民営化、腐敗)」を受講してください。

授業計画

1 授業概要

2 体制移行とは(1)歴史的大転換

3 体制移行とは(2)体制移行と経済発展

4 体制移行とは(3)体制移行と体制転換

5 体制移行の歴史的背景(1)国家社会主義

6 体制移行の歴史的背景(2)理想と現実

7 体制移行の歴史的背景(3)体制内改革

8 体制移行の理論的根拠(1)体制移行の原因

9 体制移行の理論的根拠(2)計画化モデル

10 体制移行の理論的根拠(3)移行の蓋然性

11 体制移行過程の比較(1)政策展開の相違

12 体制移行過程の比較(2)哲学の相違

13 体制移行過程の比較(3)理論的考察

14 体制移行過程の比較(4)中国の移行戦略

15 まとめ